

月刊自治研 2 2024

vol.66 no.773

特集

どうなる?。
二〇二四年度自治体財政



井藤楓恋さん

職員

城下嘉和さん

課長補佐

兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター 畜産部

〈地域を支える顔〉



城下嘉和さん・井藤楓恋さんが支える地域

兵庫県職員労働組合

結成年 1947年1月25日

組合員数 約4000人

● 城下嘉和さんプロフィール

但馬牛を飼育する農家に生まれる。高校卒業後、九年ほど民間の工場に勤務した後、一九九三年に兵庫県に採用され北部農業技術センターに勤務。二〇一八年〜二〇二二年に畜産技術センターに異動後、二〇二二年より再び農業技術センターへ。

● 井藤楓恋さんプロフィール

子どもの頃から動物好き。農業高校で牛と出会い、農業大学校へ進学後、先生方や先輩たちの薦めで県職員をめざし、二〇二三年四月より兵庫県立農林水産技術総合センター北部農業技術センター勤務。城下さんとともに哺育牛舎を担当。



視覚障害その他の理由で活字のままではこの本を利用できない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大図書」等の製作をすることを認めます。その際は著作者、または、出版者まで御連絡ください。



基幹種雄牛「忠味土井」号を前に城下さん（左）と井藤さん（右）。

兵庫県が誇る黒毛和牛「但馬牛」。霜降り肉になりやすいなどの高能力種雄牛の作出や、優良系統の維持を試験研究する兵庫県北中部の朝来市にある県のセンターで、その土台を支える仕事に従事するお二人からお話をうかがいました。

「**人**」
地域を支える人

課長補佐

城下嘉和さん

職員

井藤楓恋さん

兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター畜産部

——但馬牛に関わるきっかけ

城下嘉和 私の実家は但馬牛を飼っていた兼業農家でしたので、子ども頃から牛には愛着がありました。商業高校を卒業してから民間企業に

9年ほど勤めていましたが、但馬地域に分散していた兵庫県北部の農業技術関連の施設が、この北部農業技術センターに統合される、1993年の採用募集に応募をしたところ採用されました。2018年から2021年の4年間、加西市にある畜産技術センターに異動になった以外は、ずっとこちらで勤務をしています。井藤楓恋 私は2023年4月にこちらに採用されました。もともと動物好きでしたが、牛に接するようになったのは農業高校に進学してか

らです。それから農業大学校に進んで、先生方や先輩たちの薦めもあって県職員をめざしました。今は城下さんの指導を受けながら仕事を覚えているという段階です。

——普段の仕事

城下 このセンターは、但馬牛の改良拠点の役割があり、場内に種雄牛33頭と、繁殖雌牛200頭を基本に、育成牛や子牛を含め、約450頭を飼育していて、子牛は毎年160頭ほど生まれてきます。私たちは研究職ではなく行政職で、場内の牛を健康的に飼育することで、試験研究や家畜改良事業の土台を支えています。私たちは、生後1ヵ月から4ヵ月の子牛とその母牛たちを管理する哺育牛舎の担当で、毎日の餌



子牛たちに干し草を与える城下さん。



こちらはエサの干し草。右に見えるのはブロック状に加工したもの。



若い雄牛のブラッシングをするためにロープで固定する城下さん。



ブラッシングをすると牛はとても気持ちいいそうです。



生まれた子牛たちのデータは黒板に記録されています。



宮崎の口蹄疫以降、防疫体制が強化されて、牛舎に入る時は必ず長靴を消毒します。取材者も防護服を着ての取材でした。

城下 この仕事の難しさは、やはり生き物を相手にしているということ。それぞれの牛には個体差がありますので、マニュアル通りにはいきません。牛たちの個性や体調に合わせて、餌の量なども調整していく必要があります。

井藤 餌やりなどは、学校で習ったやり方とはぜんぜん違って、城下さんに指導していただきながら覚えていくところです。まだまだ業務を覚えるのに時間がかかってしまう

生き物相手の 難しさとやりがい

やりや健康状態のチェック、糞尿の処理などが主な仕事になります。他にも分娩をする牛や育成牛を管理するなど全部で7つの牛舎があります。牛たちは成長するにつれて、牛舎を移動していったって、種雄牛として残る牛、母牛となる育成牛、若い種雄牛の産肉能力を調べる肥育牛の素牛、そして市場に出される牛などに分かれています。



子牛用のエサを慎重に計量する井藤さん。



子牛用のエサはトウモロコシなどが多く高カロリー。



1日前に生まれたばかりの子牛ちゃん。



こちらはさらに小さな子牛用の甘みのあるエサ。



小さな子牛には与える量もほんのちよっと。

城下 このセンターとしてのメイ
ンの仕事は優秀な但馬牛の種雄牛を
残していくことです。種雄牛は毎日、
職員全員で牛舎の外に引き出す作業
をするのですが、気性が荒い牛もい
るので、危険も伴います。そのため、
それぞれの牛の状態をみんなで確認
しながら作業を進めていく必要があ
るので、職場でのコミュニケーション

——但馬牛の血統を守る仕事

井藤 弱い子牛が生まれたときや、
怪我をした母牛が私たちの牛舎に來
て、元氣になって戻っていくときは、
やっぱりうれしいですね。

城下 私たちは小さな子牛の担当
ですので、日々成長していく姿には
やりがいを感じますね。それから母
牛はだいたい1年に1回子牛を産む
ように人工授精をしていくのですが、
そうした母牛の管理がうまくいった
ときも達成感があります。

ですが、やはり牛と一緒にいられ
るだけで幸せなので、仕事は楽しい
です。



糞尿は外に掻き出して機械で収集していきます。



集めた糞尿は堆肥化施設で堆肥となり、センター内や近隣の農家にも無料で配るそうです。

ンがとても大切だなと感じています。井藤 但馬牛の雄はとても大きく角も鋭いので、はじめて見た時はとても緊張しました。入厩後、半年が経つてからは私もその作業に加わるようになって、いまではだいぶ慣れました。

城下 但馬牛は、閉鎖育種といって、県内の牛のみで血統を維持することを重要視していますが、遺伝子的に近いものばかりで交配していると病気などの問題も出てきてしまうのが

難しいところです。それを防ぐために、兵庫県ではジーンドロッキング法という手法で細かな系統解析を行って、遺伝子的な多様性も考慮しながらの管理を進めています。

印象に残ったこと、 そしてこれから

城下 2010年に宮崎県で口蹄疫が発生したことを受けて、兵庫県では防疫体制の強化に向け、但馬牛遺伝資源保管対策事業が始まりました。

但馬牛の種雄牛を伝染病から守るために、種雄牛は当センターに集められることになって、その代わりに場内産を含む全県より導入していた若い種雄牛の産肉能力を調べる肥育牛は、加西市にある畜産技術センターに集約するということになりました。当時私はその肥育牛を担当していましたが、その牛たちと一緒に4年異動することになりました。事業では、新たな施設の建設や牛舎の改造などをみんなで話し合いながら決めていき、思い入れの深い事業でした。4年間離れた後、当センターに戻ってきましたが、「兵庫県の宝」としての但馬牛の種牛を守る仕事に、これからも従事できることに喜びを感じています。

井藤 同じ牛を見ていても、城下さんの視点は私とは違っていて、私が気づかなかったことを指摘されるたびに、私はまだまだだなと感じています。もっともつと自分もこれから成長していきたいと思っています。